

# ゆっくるも通信

令和6年 5月20日 第6号  
留萌市教育委員会  
教育支援センター「ゆっくるも」

## 今年度もよろしくお願ひいたします！

留萌市教育支援センター設置元年となる昨年度は、各校の皆様にたくさんのご支援をいただきながら運営することができました。誠にありがとうございました。学校に行きたくても行けない子どもたち一人一人の気持ちに寄り添いながら、「ゆっくるも」指導室で適応指導や学習指導を行ったり、その子が抱えている悩みや困り感を聞き出したり、学校に行きたいけれど勇気が出ない子どもには一緒に別室登校を行ったりなど、一人一人の状況に応じた支援を心がけてきましたつもりです。中には「すぐに学校に行けるようになるかも……」と性急な働きかけをしてしまい、登校への意欲を減退させてしまったこともあります。子どもによっては、学校に行けないことがその子にとっての「休養」であったり「自分を見つめ直す時期」であったりする場合もあります。一人一人の子どもに合わせて、「焦らず」「ゆっくり」「少しずつ」を肝に銘じながら今後も「ゆっくるも」としての活動を進めていきたいと思います。

また、年度初めて大変お忙しい中、各校へご挨拶に伺わせていただきました。ご対応いただきました校長先生、教頭先生方には心より感謝申し上げます。学校に行けない子どもたちが家に引きこもることなく、将来の社会的自立に向けて一歩でも前に進めるようになるためには、学校と「ゆっくるも」の連携がとても重要です。そのためにも、

### ① 休みがちな子どもたちに関する早めの情報提供を。

→学校に行けない日が続いて家での引きこもりが長期になってしまふと、それだけ学校復帰の日が遅れてしまいます。最近休みがちだと思われる子どもの情報提供と保護者への「ゆっくるも」の紹介をお願いいたします。

### ② 別室登校ができる児童生徒のための場の提供と先生方のご協力を。

→学校に行けるけれども教室に入れないという子どもたちの居場所として準備していただければと思います。

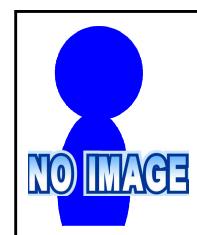
### ③ 校内の不登校児童生徒対策会議がありましたら、是非私たち指導員等も同席させてください。

→SC、SWW、「ゆっくるも」指導員がお手伝いできることもあります。よろしくお願ひいたします。

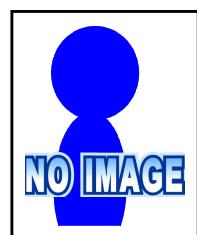
昨年度同様、お互いの情報交流や連携した取組が継続できるよう、改めてお願い申し上げます！

## 「ゆっくるも」の指導員です！ よろしくお願ひいたします！

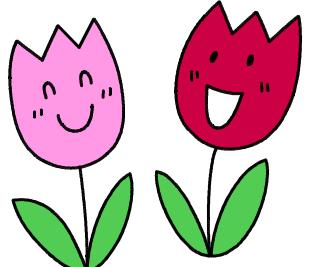
学校に行きたくても行けない子どもたちのため、今年も2人体制で「ゆっくるも」の活動を行っていきます。よろしくお願ひいたします。



安田善見指導員



吉田千春指導員



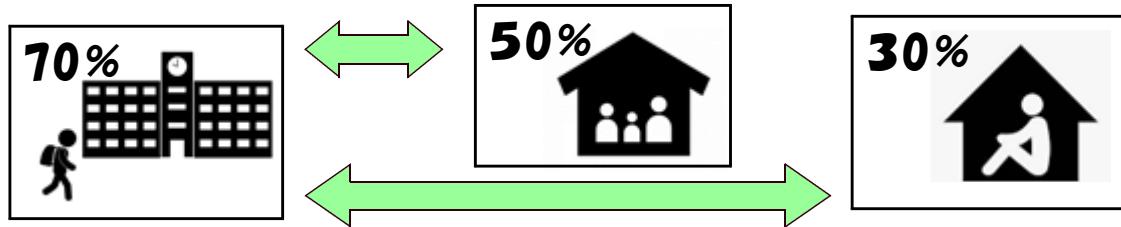
# 70%、50%、30%って、何？

～別室登校で気をつけていること。

朝出勤する時に「よし、今日も元気満々で仕事をしよう！」と、思って自宅を出発する人はどのくらいいるでしょうか。みなさんは、毎朝どのくらいのエネルギーを持って、出勤されていますか？

タイトルに挙げた数字、実は子どもたちが学校へ登校する時、帰宅した時の、気持ちや体力を合わせた平均的なエネルギー量です。朝、70 %のエネルギーを持って登校し、帰宅した時には 50 %に下がり、その 70 %と 50 %を行き来しながら、毎日登下校をしているのです。

では、30 %は？それは、学校に行きたくても行けない子どもたちが持っているエネルギーです。「行きたい！」「行けない…」「行かなきゃいけない！」の気持ちを持っているので、0 %ではないのです。



新年度がスタートし、「ゆっくりも」に通級している子どもたちが、環境の変化がきっかけとなって再登校に向けての意欲やエネルギーが蓄えられ、ドキドキや不安を抱えながら、別室登校にチャレンジしています。これは、一歩前進した成長であり、大変嬉しいことです。

ただ、これからが勝負の時です。学校に滞在した時間が例え 30 分であっても、「学校に行く」「学校にいた」ということだけで、相当のエネルギーを消費し疲労困憊になっているのです。そこで大切なのが、「無理をさせない」ことです。

では、「無理」とは、どんなことでしょうか。見えるものではないので、難しいですね。一つ目は、子どもたちの表情に注目です。必ず、危険信号を発信しています。そこに気付き、まわりがストップをかけて下さい。二つ目は、事前に決めたこと以外は取り組ませないことです。「登校した」ことに、周囲はついつい喜びが大きくなってしまいます。それは、当然のことでしょう。そして、「せっかく学校に来たのだから、これやってみようか？」と声を掛けたり、「教室行ってみる？」と誘ったりしてしまいがちです。断れない子は、無理をして「はい…」と、返事をしてしまうのです。中には、良い方向に転がる場合もあります。でも、子どもたちには予定外の取組であり、そのことで余分にエネルギーを消費し、別室登校後は無理をした分 30 ~ 0 %までエネルギーが落ちてしまいます。これでは、70 %までエネルギーを蓄えるのに相当な時間がかかってしまったり、時には振り出しに戻ったりしてしまうのです。なので、常に 50 %のエネルギーで別室登校を終えられるよう、子どもたちの表情を観察しながらサポートしていくことが大切になります。

別室登校する時の目標は、勉強以外でも良いのです。何より、子どもたちが「楽しかった」と思い、「また行こうかな」と思うことです。そのためにも、50 %の数字を頭に入れて、これからもサポートしていきたいと思っています。（吉田）

- 学校に行きたくても行けない子どもたちのことについて、教育支援センター「ゆっくりも」にいつでもご相談ください。（TEL 090-9005-5338）